

令和7年度 県立大子特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	「持続可能で、選ばれる、地域とともにある学校」 ◆持続可能で・・・安全・安心な環境を確保し、災害や社会の変化に柔軟に対応できる力を育む学校 ◆選ばれる・・・地域の特別支援教育の中核として、誰もが安心して学べる場を提供する学校 ◆地域とともにある学校・・・コミュニティスクールを活用し、地域づくりと学校づくりをともに進める学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
1 「学びがい」の推進 (成果) 個別最適な指導と体験を活かした横断的な学び図られた (課題) 児童生徒の主体的な学びを促す指導の工夫 2 「働きがい」の推進 (成果) 地域との連携や協働の強化 (課題) キャリアパスポートの効果的な活用 3 「頼りがい」の推進 (成果) 情報発信と教育相談の充実 (課題) 防災対応力を高める学習の工夫 4 「生きがい」の推進 (成果) 授業準備時間の確保と働き方の適正化 (課題) 保護者・支援者の協力体制の推進	1. 「学びがい」の推進	①指導の個別化と学習の個性化による個別最適な学びの実現 ②体験と教科が関連づいた、教科等横断的で学びやすいカリキュラムの実現 ③障害特性の考慮と知見や根拠に基づいた、わかりやすい授業実践の実現 ④主体的に取り組むための、興味や得意なことに応じた支援や工夫	B		
	2. 「働きがい」の推進	①地域社会と関わる学びを通して、心の教育を深めるとともに、自立や社会で役立つ力の育成 ②ICT活用とSDGsの視点を踏まえた教育実践力の向上 ③子ども目線でのいじめ防止と心のケアによる安心できる環境づくりの推進 ④教職員として必要なコンプライアンス意識(法令遵守や道徳的行動)の醸成	A		
	3. 「頼りがい」の推進	①健康・安全に関する能力及び実践態度を育成する教育の充実 ②学校危機に対応する学校環境の整備と、防災安全教育の充実 ③地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮	A		
	4. 「生きがい」の推進	①健康で豊かな生活をおくるための生涯スポーツの推進 ②生活の質の向上と余暇の充実につながる文化芸術活動の充実 ③社会のニーズを踏まえた働きやすい職場環境の整備と働き方改革の推進 ④社会自立と社会参加の推進(就労・余暇・地域参画・奉仕活動)	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	地域と関わり主体的な防災知識・技能の向上	①教育課程に防災学習を位置づけ、教職員が組織的に取り組む ②地域・家庭と協力し、実践的な防災学習を推進する	1-①②③ 2-① 3-②	A	○教職員が組織的に「もし活」に取り組み、全校で「もし活Day」を実施することができた。 ○近隣学校と子ども防災会議により、共通の学習に基づく取組が推進された。 ●危機管理マニュアル(火災・雷等)の早期見直しと内容の改善が必要である。

					◇家庭への実践の広報及び、地域（上小川シニアクラブ）との防災連携の充実を図る。
教職員の育成及び指導・監督	教職員の指導力向上。いじめ防止と心のケア	①校内研修で効果的な指導方法を学び、授業観察を通して改善点を共有 ②児童生徒の実態に応じた指導と心のケアで、いじめの兆候に早期対応	1-①③④ 2-①③	B	○生徒指導提要に関する研修や生徒支援の動向について、学校全体で共有を図ることができた。 ●指導方法の共通理解に課題が見られる。 ◇教員の成長ステージに応じた研修機会の充実を図る。
対外活動	地域資源を活用した社会参加 防災学習の実施	①地域資源・人材を活用し、関係機関と連携 ②近隣小学校と連携・協働して学習に取り組む	1-①②③ 2-①② 3-③ 4-①②	A	○学校運営協議会を通して、委員の主体的かつ積極的な関わりが見られた。 ●火災や雷等に対応する危機管理マニュアルの見直し・改善が必要である。 ◇地域（上小川シニアクラブ）との防災連携を推進する。
コンプライアンス確保	教職員の不祥事ゼロ	①コンプライアンスニュースの推進 ②不祥事情報の共有。「隠さず・ためらわず・すぐ報告」の意識	2-③④ 3-②	A	○毎月のコンプライアンスニュースが、教職員の意識向上に有効であった。 ○事故発生時に速やかに報告・連絡を行う意識が定着している。 ●業務の優先順位付けが不十分で、スケジュールの遅れが見られる。 ◇「隠さない」組織風土のさらなる醸成を図る。
働き方改革	勤務時間外月45時間以上の教職員ゼロ	在校時間が長い教職員と話し合い、改善策を一緒に考える	1-④2-① 4-③④	B	○在校等時間の上限を超える職員はおらず、働き方改革は着実に進んでいる。

					<ul style="list-style-type: none"> ●業務の計画的遂行や施設時間の遵守に課題が見られる。 ◇業務改善とルールの徹底により、組織的な運営の強化を図る。
I C T活用	ICT 機器の活用	授業でのアプリ活用を確認し、使用内容に応じて助言	1-①③④ 2-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○Canva 研修の実施により、授業における ICT 活用の幅が広がった。 ●アプリ・ソフトの活用に関するスキルに個人差が見られる。 ◇校内での活用事例の共有や研修の充実、他機関との連携による ICT 活用力の向上を図る。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない